

タイで過ごした1年間

留学の理由・目的

私は2022年1月～12月の2学期間、タイ・バンコクにあるチュラロンコン大学の文学部に留学しました。トビタテ奨学金を受給し、夏休みには実践活動としてインターンシップを行いました。創生学部では農学の食品科学を勉強しており、個人的な体験からアレルギー対応食品に興味があったため、「小麦アレルギー患者に米加工品を普及させる」をトビタテのテーマにしました。元々アメリカとロシアでのホームステイ経験はあったものの、日本以外のアジアの国への渡航経験が無く、アジアの国に行ってみたくて以前から思っていました。タイは米文化が根強く、米の加工品の種類が多いことに加えて食品産業に注力していることから、現地での実際の食事を通して米加工品が普及している環境を知りたいと思い、留学先に選びました。

留学先での学習と生活の環境

留学先大学は都心に位置しており、生活の不便は全くありませんでした。留学生用の寮に住んでいましたが、セキュリティが24時間完備されており、部屋も衛生的でした。徒歩圏内にショッピングモールがいくつもあったので、放課後や週末には友達とご飯やカフェを楽しむことができました。近くに電車と地下鉄の駅がある他、タクシーや電動トゥクトゥク、バス、レンタル自転車・スクーターが格安で利用できるため、交通の便も非常に良かったです。

私はBachelor of Language and Cultureという国際ナショナルプログラムに所属していたので、授業は全部英語でした。2学期のうち、最初の学期は全てオンライン授業だったので、寮の部屋からZoomで授業に参加し試験を受けていました。後半の学期では、全授業を対面で受けることができたため、キャンパスに通いました。オンライン授業は勉強に集中しやすい反面、友達作りが難しくクラスメイトや先生の雰囲気は掴みづらいため、苦労しました。同じ授業を受けている人に自分からメッセージを送ったり、先生に分からないことや苦戦していることを個人的に相談したりして乗り越えました。前半の努力のおかげで、後半の対面授業はスムーズに受けることができました。タイ人の友達を多く作ることができ、困った時に助けを借りることができました。学食を頻繁に利用するようになり、毎日安くタイ料理を楽しめました。授業は1コマ3時間で、大抵午前か午後に授業があり、他の時間は予習・復習をしたり、趣味としてダンススタジオに通ったり、大学のクラブに参加したりしていました。週末は友達とバンコク内を観光したり、国内旅行に行ったりしていました。

授業での課題・語学について

食文化やアジアの文化に関する授業を中心に履修していました。前半の学期では3つ、後半の学期では4つの授業を受けていました。現地の正規の学生と比較すると履修していた授業数は少ないですが、予習・復習にかなり時間を割いていたので、自分のキャパシテ

イを最大に使って勉強することができました。予習では毎週 20 ページほどの論文を読み、語彙が自然と増え Reading の力を伸ばすことができました。課題は基本的に中間試験と期末試験の 2 回で、毎回 1000~2500 語ほどの essay を書きました。試験ではそれを時間内に書く必要があり、Writing の力が試されました。Listening と Speaking は自然に伸びましたが、Listening については、最初は授業についていくのに必死だったものの徐々に慣れていきました。さらに街で店員さんと話す中で、なまりのある英語にも慣れることができました。Speaking は友達と話す時間を多く持つようにすることで力を伸ばすことができました。タイ語が分からなくても生活に支障はほとんどありませんが、レストランの注文や簡単な日常会話などは現地の友達に教わりながらタイ語を使っていました。クラスメイトの英語には癖がほとんど無く、さらにネイティブの先生の授業も多くあるので、タイでも実践的な英語力を伸ばすことは十分可能だと思います。

印象に残った留学中のエピソード

2 ヶ月間の夏休みの期間は現地の食品企業 2 社でインターンシップを行いました。受け入れ先を探すため、自分で実際の売り場に行って商品を探し、問い合わせ先を見て企業にメールを送ったのは大変でしたが、今では貴重な経験になったと感じています。タイ最大の食品展示会に行って世界中から集まるバイヤーの人とお話し、ブースで商品の宣伝の手伝いをできたことはとても印象に残っています。また、デパートのイベントに参加した際にはタイ語が全くできないにも関わらず、ブース販売を任されることもありました。少し戸惑いましたが、英語で商品説明や接客を行い、商品に対するお客さんの反応を直接見ることができて、とても有意義な活動になりました。健康や環境に配慮した商品作りを学べたと同時に、小規模な会社の雰囲気を感じることができました。

留学して学んだこと

留学を通して現地の学生や社会人、様々な国から来た留学生と交流することができ、自分を改めて見つめ直すきっかけになりました。自分の関心がクリアになり、働き方や暮らし方について多様な価値観に触れられたおかげで、帰国後の就職活動でのビジョンをより明確に持つことができました。新しい環境で様々なことにチャレンジした経験は今後どんなことがあっても自分なら乗り越えられるだろうという自信に繋がりました。授業ではアジアと欧米の対比を学び、欧米から見たアジアや、その土地の文化を大切にすることを学びました。同じアジアでも日本との類似点・相違点があり、アジアという地域への理解の解像度が上がりました。タイで過ごした時間は私の人生においてとても大切なものになりました。大好きな土地ができたことを純粋に嬉しく思います。私の留学を支えてくれた全ての人に感謝を伝えたいです。



イサーン地方の料理



グランドパレス



クラビー旅行で訪れたビーチ